別紙3

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
（総括・分担）研究報告書

脳卒中診療において今後目指すべき回復期診療の検討及び回復期や維持期・生活期における診療体制の充実に資する臨床指標を確立させるための研究（24FA1019）

～研究 2-3　回復期，維持期（生活期）医療機関，地域包括ケアに関わるケアマネジャーへの実態調査～

研究代表者　藤本　茂　自治医科大学内科学講座神経内科学部門教授
研究分担者　益子　貴史　自治医科大学内科学講座神経内科学部門講師
研究分担者　小笠原　邦昭　学校法人岩手医科大学学長
研究分担者　宮本　享　京都大学医学部附属病院特任教授
研究分担者　橋本　洋一郎　済生会熊本病院脳卒中センター脳神経内科特別顧問
研究分担者　豊田　章宏　中国労災病院治療就労両立支援センター所長
研究分担者　板橋　亮　学校法人岩手医科大学医学部内科学講座脳神経内科・老年科分野教授
研究分担者　竹川　英宏　獨協医科大学獨協医科大学病院教授
研究分担者　黒田　敏　国立大学法人富山大学脳神経外科教授
研究分担者　阿部　竜也　佐賀大学医学部脳神経外科教授
研究分担者　古賀　政利　国立研究開発法人国立循環器病研究センター脳血管内科部長
研究分担者　堀江　信貴　国立大学法人広島大学大学院医系科学研究科脳神経外科教授
研究分担者　太田　剛史　神戸市立医療センター中央市民病院脳神経外科部長
研究分担者　堀内　哲吉　信州大学脳神経外科教授
研究分担者　松丸　祐司　国立大学法人筑波大学医学医療系脳神経外科教授
研究分担者　川西　正彦　香川大学脳神経外科准教授
研究分担者　高木　康志　国立大学法人徳島大学大学院医歯薬学研究部脳神経外科学教授
研究分担者　辻野　彰　長崎大学病院教授

研究要旨：連携における疾患管理プログラムのツールとして「脳卒中地域連携パス」が活用されてきたが，統一した重要項目の設定がなされておらず，回復期医療機関以外の維持期（生活期）医療機関，地域包括ケアシステム，かかりつけ医への継続が不十分であった．地域で活躍するケアマネジャーの視点から，脳卒中患者の疾患管理プログラムに盛り込むべき項目を明らかにする目的で，日本介護支援専門員協会の協力のもと，実態調査を実施した．ケアマネジャーが重視している情報のうち，疾患の予後や今後に関する説明内容，患者・家族の理解度，栄養指導の内容，患者・家族の希望，生活習慣病の治療・目標

値・注意点などは不足している情報の上位でもあった．その他，ACP に関する説明内容，復職・復学に関する支援内容，服薬指導の内容，運転の可否に関する情報，高次脳機能障害など，患者の QOL 向上のための支援に不可欠と思われる情報も不足していることがわかった．ケアマネジャーは多職種の情報提供書への関心が高く，容易に必要な情報を共有できるシステムが必要である．

Ａ．研究目的

連携における疾患管理プログラムのツールとして「脳卒中地域連携パス」が活用されてきたが，統一した重要項目の設定がなされておらず，回復期医療機関以外の維持期（生活期）医療機関，地域包括ケアシステム，かかりつけ医への継続が不十分であった．また，パスの作成や利用に関わる職種では，医師，看護師，リハビリテーション専門職の頻度は高かったが薬剤師，管理栄養士の頻度が少なかった．そこで地域の薬局，回復期，維持期（生活期）医療機関，地域包括ケアのなかで脳卒中患者のケアに従事するケアマネジャーに対し，脳卒中地域連携で重視する指標，不足している情報，現状の課題に関する調査を，日本介護支援専門員協会の協力の下実施した．

本研究の目的は，地域で活躍するケアマネジャーの視点から，脳卒中患者の疾患管理プログラムに盛り込むべき項目を明らかにすることである．

Ｂ．研究方法

日本介護支援専門員協会の協力の下，脳卒中患者のケアに従事するケアマネジャーに対し，別紙資料 5 のアンケート調査を実施した．主として

・地域連携パスへの関り
・重視している情報
・現在の連携で不足している情報

である．

Ｃ．研究結果

別紙資料６参照．

ケアマネジャー264 名から回答を得た．

脳卒中地域連携パスの利用率は 20.0%であった．

ケアマネジャーが重視している情報は，生活習慣病の治療・目標値・注意点（86.4%），併存疾患・合併症（84.8%），具体的な診断名（84.1%），疾患の予後や今後に関する説明内容（81.8%），患者・家族の理解度（81.1%），嚥下障害の有無・食事形態・食事量・嗜好（79.5%），服薬指導の内容（78.0%），認知機能（78.0%），リハビリテーションの経過（75.0%），高次脳機能障害（73.5%），患者・家族の希望（72.0%），失語症（68.2%）の順に多かった．

一方で，不足している情報として，疾患の予後や今後に関する説明内容（54.5%），患者・家族の理解度（49.2%），栄養指導の内容（48.5%），ACP に関する説明内容（48.5%），服薬指導の内容（37.9%），患者・家族の希望（35.6%），フレイル対策・指導内容（35.6%），復職・復学に関する支援内容（34.8%），運転の可否に関する情報（32.6%），生活習慣病の治療・目標値・注意点（28.0%），高次脳機能障害（25.0%），体重の変化（21.2%）の順に多かった．

ケアマネジャーが参考にしている他職種

のサマリー・情報提供書では，看護師(81.8%)，理学療法士（81.1%)，作業療法士(72.7%) が上位であったが，今後参考にしたいのは，管理栄養士・栄養士 （50.0%)，薬剤師（47.7%)，医師（24.2%）が上位であった.

D．考察

ケアマネジャーが重視している情報のうち，疾患の予後や今後に関する説明内容，患者・家族の理解度，栄養指導の内容，患者・家族の希望，生活習慣病の治療・目標値・注意点などは不足している情報の上位でもあった．その他，ACP に関する説明内容，復職・復学に関する支援内容，服薬指導の内容，運転の可否に関する情報，高次脳機能障害など，患者の QOL 向上のための支援に不可欠と思われる情報も不足していることがわかった．ケアマネジャーは多職種の情報提供書への関心が高く，容易に必要な情報を共有できるシステムが必要である．

E．結論

今回の調査により，ケアマネジャーが重視している項目が必ずしも共有できていないことが明らかとなった．多職種での情報共有で解決できる可能性があり，システム構築が求められる．

F．研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G．知的所有権の取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

特記事項なし

別紙４

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ
該当なし							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
該当なし					